

## ダイゼン *Pluvialis squatarola* の越冬群

### 【選定理由】

藤前干潟および庄内川河口周辺、汐川干潟、伊川津干潟および福江湾周辺のダイゼンの越冬群は、全国有数あるいは本州最大級の規模であり、本種の国内における生息状況を鑑みて、特に保全に対する配慮が必要な地域個体群といえることができる。また、干潟に対する依存度が特に高いことから、分布が局地的で、生息条件の悪化により急速に数を減らす可能性がある。

### 【形態】

全長 27～31cm、翼広長 71～83cm。夏羽は、頭頂から後頸にかけて白色で黒色の斑が散在し、肩羽と雨覆および三列風切は黒褐色で白色の斑が数多くあり、顔から前頸、胸、腹にかけては黒色で、額から眉、側胸にかけて幅広い白色帯がある。冬羽は、頭および上面が褐色で白色の羽縁があり、顔から胸にかけては淡褐色で腹は白い。幼羽は冬羽に似るが、上面の羽縁および三列風切の白斑が明瞭。腰は白色で、尾羽に細い黒色の横帯が、脇に大きな黒色斑がある。後趾がある。



愛知県田原市, 2002年10月13日, 杉山時雄 撮影

### 【分布の概要】

ユーラシア北部から北アメリカ北部で繁殖し、ヨーロッパ、アフリカ、インド、東南アジア、オーストラリア、南北アメリカの海岸で越冬する。日本には、春と秋の渡り時期に渡来し、本州中部以南で越冬する。

県内では、冬期および春と秋の渡り時期に伊勢湾、三河湾沿岸の干潟に生息する。春期は渡り途中と考えられるのものも加わり、数が増加する。

### 【生息地の環境 / 生態的特性】

干潟に群をなして生息し、ゴカイ類、甲殻類、二枚貝などを捕食する。ピューイ、ピューイと澄んだ声で鳴く。沿岸域の広大な干潟に対する依存度が特に高い種であり、内陸部ではほとんど見られない。

### 【現在の生息状況 / 減少の要因】

近年に行われたシギ・チドリ類の全国調査によると、冬期（12～2月）の観察最大数の合計が35箇所所で2,414羽（環境庁, 2000）、春期（3～5月）の観察最大数の合計が73箇所所で3,900羽（藤岡ほか, 1999）となっている。

本州以北で冬期に本種のまとまった群が見られる地域は、東京湾（千葉県沿岸）、伊勢湾・三河湾にはほぼ限られ、県内では、藤前干潟および庄内川河口周辺で約100～150羽、汐川干潟で約100～150羽、伊川津干潟および福江湾周辺で約100羽が越冬している。

### 【保全上の留意点】

採餌場所としての干潟を保全するとともに、干潟が水没した時などに退避できる場所（ねぐら）の確保・創出に努める必要がある。干潟性鳥類の代表種であり、継続的に調査を行い生息状況を把握することが望ましい。

### 【引用文献】

環境庁, 2000. 平成11年度冬期 シギ・チドリ類個体数変動モニタリング調査報告書 速報, pp.15-25. 東京.

藤岡エリ子・藤岡純治・稲田浩三・桑原和之, 1999. シギ・チドリ類全国カウント報告書 1998年春, pp.10-34. 日本湿地ネットワークシギ・チドリ委員会, 豊橋.

### 【関連文献】

桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 水辺の鳥, pp.191. 文一総合出版社, 東京.